

平成24年度末 徳島県立阿波高等学校 学校評価(1/3)

重点課題	評価項目	担当	評価指標	評価	具体的 数値	数 値 目 標					評価サイクルの検証	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
						D	C	B	A	S			
1 学校運営の充実 ①校内各組織の連携を強化して機能的な運営を図り、よりよい学校づくりに努める。 ②家庭や地域、同窓会との連携を図り、地域に信頼される学校づくりに努める。 ③創立 90 周年記念事業に向け、具体的な取組を推進する。	PTA・同窓会と円滑な連携を図る。	渉外	PTA 総会への参加率が 40 %以上	B	37 %	～ 10	11 ～ 30	31 ～ 40	41 ～ 55	56 % ～	総会への参加率は昨年に比べて 3 %増加した。	PTA 総会への保護者の参加については、ホームページ等有効に活用して保護者に連絡事項を伝え、参加率の向上を図って欲しい。	PTA 総会や各種行事についてメール配信により連絡し、保護者との連携強化を図る。
			進路	進路保護者会への参加率が 45 %以上	B	42 %	～ 24	25 ～ 39	40 ～ 49	50 ～ 64	65 % ～		進路保護者会への出席者数は 1 年が 69 名、2 年が 84 名、3 年が 112 名だった。
	学校の情報を詳しく早く発信する。	情報・視聴覚	ホームページ更新ができる教職員の割合が 80 %以上	B	約 80 %	～ 49	50 ～ 74	75 ～ 84	85 ～ 89	90 % ～	更新者の表示をより現実に即したものに更新するなど改善を進めたが、目標数値程度にとどまった。		ホームページ内容については、特にビジュアル面の充実をめざし、閲覧者に有用で再訪を促すような内容を検討したい。職員へは年度初めの適当な時期に資料を配布すると共に講習会を開催し、更新作業内容の確認を行う。また、連絡メールとホームページの相互活用方法などの研究を行う。
			各部活・同好会の年間更新回数 2 回以上が 40 %以上	B	38 %	～ 10	11 ～ 30	31 ～ 40	41 ～ 55	56 % ～	年間更新回数 2 回以上の部活は 37.5 %。全体の平均年間更新回数は 1.75 回。最多更新は 9 回、最少は 0 回。部活間の記入の有無が大きい。		今年度途中より各部名義で記入できるようにシステムの改変を行ったが、有効に活用されていない。次年度は適当な時期に資料配布並びに講習会を開催し、顧問への周知徹底と書き込みの呼びかけを強化する。
	中学校・保護者・地域との連携を取り、阿波高校のアピールに努め、入学希望者の増加を図る。	教務	地域別学校説明会（3 会場で実施）への出席者数 80 名以上（昨年：71 名）	A	84 名	～ 60	61 ～ 70	71 ～ 80	81 ～ 90	91 名 ～	昨年度より参加者は 13 名増加した。近隣の中学校に申し込み用紙を持参し、取りまとめをお願いしたことが効を奏したと思われる。		申し込み方法を簡素化する効果は大きいと思われるので、さらに方法の改善を図りたい。また、説明会の内容についても、質疑応答がさらに活発化するように工夫していきたい。
			中学生体験入学（8 月に本校で実施）の中学生参加者数 350 名以上（昨年：328 名）	A	368 名	～ 310	311 ～ 330	331 ～ 350	351 ～ 370	371 名 ～	昨年度より中学生の参加者が 40 名の増加をみた。中学校への広報依頼（ポスター掲示等）などにより、ある程度参加への動機付けが図れたと思われる。		中学生体験入学については、2 部に分けて多数の希望生徒が参加できるように工夫するなど大変よく努力しており好結果を出している。
2 人権教育の推進 ①あらゆる機会を捉えて人権尊重の精神の涵養を図る。 ②差別を見逃さない人権感覚と自他を大切にす態度の育成を図る。	人権意識の高揚を図る。	人権	「人権ホームルームや映画会・意見発表会、講演会など人権に関する活動を通じて、人権意識が高まった」と思う生徒の割合が 70 %以上	C	65 %	～ 59	60 ～ 69	70 ～ 79	80 ～ 89	90 % ～	昨年度の数値 66 %と比べて僅かではあるが人権意識が高まったと思う生徒の割合が低下した。	人権行事・活動の項目や内容の見直しを行う。そのために課会議や委員会などを活用する。また、事後指導の結果の活用や生徒の活動・表彰の周知が不十分なので、積極的に活用・周知する方法を考える。	
3 学習指導の改善と確かな学力の向上 ①校内研修の充実や研究授業により、教員の指導スキルの向上に努める。	研究授業や研究協議、公開授業を実施する。	職員研修	研究授業・協議を 6 教科以上で実施する。	A	7	～ 3	4, 5	6	7	8 教科～	昨年に比べ教科数を増やしたが、当初の予定通り実施できた。	授業評価では、「わかりやすい」では 54 %だが、「おおむねわかりやすい」と答えた生徒を入れると 80 %を超えており、先生方はよく頑張っている。	6 月、7 月、9 月の三ヶ月間で終える予定だったが、学校行事やその他個人的な仕事の絡みがあり、2 月一杯までかかり全部終了した。

平成24年度末 徳島県立阿波高等学校 学校評価(2/3)

重点課題	評価項目	担当	評価指標	評価	具体的数値	数値目標					評価サイクルの検証	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策	
						D	C	B	A	S				
②生徒の学習意欲を喚起するとともに、家庭での学習習慣の確立を図る。		職員研修	授業評価で説明がわかりやすいと答える生徒の割合が60%以上	D	54.0%	～54	55 ～59	60 ～65	66 ～70	71% ～	昨年度より約5%上昇したが数値目標には届かなかった。比較的わかりやすい生徒が、30%いるので、あとひと工夫すれば数値目標を上回る。	今後は、さらに生徒の学力が伸びるように効果的な授業の工夫をお願いしたい。また、生徒の苦手な教科・科目や分野が克服できるような指導をお願いするとともに、分かりやすい授業をお願いしたい。	授業が重要な教育活動であるとしてしっかり認識して日々の授業に取り組む必要がある。そのためにも、評価の結果を受け止め、自らの授業の課題を把握し、その改善に努めなければならない。	
	ICTを活用する授業を研修・実施する。	情報・視聴覚	ICT利用授業を実施した教職員の割合が60%以上	D	約30%	～39	40 ～59	60 ～70	71 ～89	90% ～	ICTの活用はわかる授業を実現するための手段である。%にとらわれ過ぎることはないが、あとひと手間をかけて積極的に利用して欲しい。		NHK学校放送、特に動画クリップの活用を活性化させるために、研修会の開催など方策を考えたい。また、より客観的な数値を得る検証方法を検討したい。	
			ICT活用に関する校内研修会を行う。	C	1回	0	1	2	3	4回 ～	放送教育研究会ならびにNHK学校放送の紹介にとどまる。		年間計画を具体的に作成し、教員全体のICT活用に向けた意識向上に努めたい。	
	家庭学習時間の確保を図る。	進路	1年の家庭学習時間が2.0時間以上	B	1.7時間	～0.5	0.6 ～1.5	1.6 ～2.5	2.6 ～3.5	3.6時間 ～	1学年の平均は1.71時間、2学年は1.94時間、3学年は2.7時間となり、各学年ともに目標時間を下回った。			今後も引き続き家庭での学習状況の把握に努める。学習状況や生活習慣の改善の必要がある生徒については進路課で状況を把握し、個別面談を実施する。
			2年の家庭学習時間が2.5時間以上	C	1.9時間	～1.0	1.1 ～2.0	2.1 ～3.0	3.1 ～3.5	3.6時間 ～				
3年の家庭学習時間が3.0時間以上			B	2.7時間	～1.0	1.1 ～2.5	2.6 ～3.5	3.6 ～4.5	4.6時間 ～					
読書活動の充実を図る。	図書	図書館からの貸出冊数が1人当たり7冊以上(4月～1月)	D	4.6	～5.5	5.6 ～6.5	6.6 ～7.5	7.6 ～8.5	8.6冊 ～	1年生の貸出冊数が前年の約6割であったこと、貸出冊数が極端に少ないクラスの改善ができなかったこと、が原因である。	教職員、生徒が本との距離を短くする(具体例として、本のリクエスト制の実施、図書委員の図書館作り作成、委員会の回数増加とか)企画を実施する。			
4 生徒指導の徹底 ①面接等により生徒一人ひとりの理解に努め、生徒の心に響く生徒指導をする。 ②社会の一員としての自覚の醸成、基本的な生活習慣の定着、交通安全教育の推進に努める。	遅刻防止指導の充実を図る。	生徒	遅刻者を1日平均8名以下にする。	B	約10名	15～	14 ～11	10 ～7	6 ～3	2 ～0人	昨年同様、2学期後半から増加し、目標を達成することができなかった。	遅刻防止指導の充実では、評価がBになっているが、人数は10名ということなので、指導の効果は挙がっているのではないかと。ただし、遅刻することによって交通事故につながらないように指導して欲しい。		指導方法を工夫するとともに、遅刻が5回以上の生徒には家庭に連絡し協力を得る。
	悩みを持っていたり、特別支援の必要な生徒への対応を充実させる。	相談	不適応生徒がいないか、年3回以上声を掛け調べる。	B	3 ～4	0	1 ～2	3 ～4	5 ～6	7回 ～	担任や学年主任と相談し、巡回相談や学校カウンセリング、保護者との面談を実施した。		プライバシーの守れる相談室を確保し、生徒への教育相談を充実させたい。引き続き保護者や関連機関と連携し、状況の改善に向けて取り組みたい。	
			特別な支援が必要な生徒への理解とよりよい対応につながる研修会を実施する。	A	2	0	1	2	3回 ～	5月に発達障害の理解と対応についての研修会を実施、2月には巡回相談を踏まえて校内委員会を開き、生徒の様子や対応の仕方について共通理解を図った。	早期に巡回相談を依頼し、その結果に基づいて、個別の生徒の支援につながる研修会を来年度も実施したい。			
5 進路指導の充実 ①キャリア教育を推進し、生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択できるよう支援する。	長期休業中の有効活用を推進する。	進路	長期休業中の補習の内容に満足していると答える生徒の割合を75%以上にする。	C	60%	～49	50 ～69	70 ～79	80 ～84	85% ～	1、2年次の長期休業中の補習は1コマ60分とし、英・数・国の3教科を毎日実施するように改めた。また、3年次の補習についても実施教科のバランスを考慮し補習のあり方を見直した。	補習に満足度について、どのような点に満足しているのか、今後のアンケートに入れたらよいのではないかと。	1、2年次は来年度も引き続き生徒の集中力が持続しやすい60分1コマとし、英・数・国の3教科を毎日実施する。3年次の補習についても実施教科のバランスを考慮して行う。また、生徒のモチベーションを上げるため、各教科と連携を取り模試や入試問題も交えるなど内容についても検討を加える。	

平成24年度末 徳島県立阿波高等学校 学校評価(3/3)

重点課題	評価項目	担当	評価指標	評価	具体的 数 値	数 値 目 標					評価サイクルの検証	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
						D	C	B	A	S			
②生徒個々の資質や適性に応じた3年間を見通した段階的・系統的な進路指導を行い、第一希望の進路の実現を支援する。	進路に向けた意識を早くから持たせ、進路実現を図る。	進路	進路検討会をのべ5日以上する。	B	5	～3	4	5	6	7日～	1学期、2学期にそれぞれ2回、3学期に1回実施した。学年及び進路課で個々の生徒の学習の進捗状況について共通理解を図った。	国公立大学への進学率を上げて欲しい。	情報を共有し、効果的な教科指導や進路指導を行うために、来年度も1学期、2学期にそれぞれ2回、3学期に1回実施する。
			国公立大学合格者数70名以上	C	47名	～44	45 ～64	65 ～74	75 ～84	85人～	AO入試、センターを課さない推薦、センターを課す推薦、国公立前期入試の結果が発表された段階での合計は47名である。		早朝補習を11月末まで行い、センター対策を充実させる。進路HRや進路講演会、個人面談等とおして、より早い段階での生徒の受験に対する意識づけを行う。
			望ましい進路意識を育むための取り組み（進路講演会、進路HR活動、個人面談等）に満足したとする生徒の割合80%以上	S	86%	～49	50 ～69	70 ～79	80 ～84	85%～	生活時間調査の中で行ったアンケート調査では満足したとする生徒の割合は86%だった。		「大変満足している」とする生徒の割合がより一層増加するように、進路HRの内容や面談のあり方等についても検討を加える。
6 特別活動の充実 ①ホームルーム活動や学校行事、生徒会活動、部活動など、望ましい集団活動を通して、豊かな人間性や自主的・実践的態度の育成を図る。 ②ボランティア活動の充実を図り、豊かな心を持つ地域に貢献できる生徒の育成を図る。	学業との両立を図りながら、部活動の充実を図る。	特活	全国・四国レベルの大会に12以上の部が出場する。	B	全国7 四国5	～9	10,11	12,13	14,15	16部～	昨年より多くの部が全国大会に出場できた。特に、男子弓道部が団体で選抜大会に初出場を果たした。個人種目でも水泳、陸上でインターハイや国体出場を果たした。	全国大会への出場7は大変評価できる。四国大会への出場についても数値を上げてほしい。 球技大会では、リーグ戦方式を取り入れるなどして、生徒の出場の機会を大幅に増やしており、大変よい工夫で評価できる。	文武両道を高いレベルで達成できるように、より効率的な活動・運営を目指したい。その上で来年は、四国大会への出場種目を増やしたい。
			部活動の部長会を年に3回以上実施する。	A	4回	～1	2	3	4	5回～	部活動の部長会を4回実施した。また、部活動顧問会も3回実施した。		部長会を各学期2回以上実施し、部活動のさまざまな問題について話し合うことでリーダーの育成に努める。
	学校祭をはじめとする学校行事の満足度を80%以上にする。		S	90%	～60	61 ～70	71 ～80	81 ～90	90%～	学校祭のアンケートでは、96.4%の生徒が「よかった」と回答した。また、球技大会や予餞会の満足度も80%以上であった。	学校行事への参加は積極的であるが、その中で生徒に身につけてほしい資質について「目当て」をきめて取り組む。		
	ボランティア活動に計3回以上参加する。		B	3回	0	1～2	3	4～6	7回～	「徳島マラソン」、「土成三ヶ寺ウオーキング」、「阿波フェスタ」など、地域のボランティア活動に多数の生徒が参加した。	地域のボランティア活動の参加が、地域再生など大学で学ぶことや将来したい職業と合致している場合があるので、インターシップの意味合いを含めて取り組ませるようにしたい。		
7 環境教育の充実 ①校内環境の美化に努め、公共心や奉仕の精神の育成を図る。 ②「新学校版環境ISO」等環境問題に取り組む態度と実践力の育成を図る。	「地球環境を守る日」を実施する。	環境 厚生	年間5回実施する。	A	5回	0	1～2	3	4～5	6回～	5月のゴミゼロの日、6月、10月、12月、2月の地球環境を守る日で、予定通り実施した。	ペットボトル・プルタブの回収等よく工夫し努力している。	毎回美化委員や野球部員やJRC部員が参加してくれた。しかし、2年生より1年生の参加が少ないので、参加者が増加するようにしたい。
	ゴミを分別する。		B	74%	～49	50 ～69	70 ～79	80 ～84	85%～	毎月の分別評価表の記録では教室内の分別はほぼできている。外周りのごみの分別ができていないことがあった。	いつでもどこでもごみの分別ができるように一人一人の意識を高め、85%以上になるように努力したい。		
8 防災教育の推進 ①防災計画を見直し、学校防災体制の整備・充実を図る。	救急処置法を身につける。	職員研修	教職員対象の救急処置の講習会を実施する。	B	1回	0	1	2回～		救急処置法については、予定通り実施した。	AEDが常に誰でも使用できるようにして欲しい。	器具が少ないので、練習できる人数が少ない。練習をやった人と見ていただけの人とは、実際の場合では差があるので、次年度には、器具を借りて全員ができるよう努力したい。	
	防災計画について職員間で情報を共有する。	生徒	防災計画についての研修、防災訓練を年に3回以上実施する。	B	2回	0	1～2	3	4	5回～		防災関係のHRや避難訓練を実施し防災に対する意識を高めることができた。	引き続き中消防署と連携をとって避難・消火訓練を実施していきたい。また、訓練を通じて技術を習得できるような内容にしたい。